

ユダヤ教を基礎としたキリスト教神学・哲学

ANTICA NAMUR 2021」開催に合わせて編集しました。



La Danse - Charles Samuel (1862 - 1935), Ecole belge 1913 (から購入しました。ヤンセン・ファン・デル・メーレン師 (ブリュッセル 2020)

付録として、2ページ目にユダヤ教の原型について、12ページ目に高いモラルを持つ若者、特に少女が文化的に間違った方向に送られていることについて記載されています。

注：コンセプトは主に若い人たちを対象としています。そのためには、細部にまでこだわって明確に書かなければなりません。そうしないと、また間違えてしまうからです。

本来のユダヤ教は、時代を超越した悟りの宗教の代表格である。イエスは、ここで明らかな衰退に遭遇した。

この宅建士のイエスが遭遇したこのような虐待は、特にユダヤ教においては、実際には全く許されないことでした。なぜなら、ユダヤ教だけが、特に女性の状況に対して、絶对的に肯定的で、他の宗教にはない価値観を持っている唯一の宗教だからです。

しかし、ユダヤ教はもともと宗教ではなく、現代の感覚から見ても非常に啓蒙的で人間的な生活態度を持っていました。また、エピローグも参考にしています。すべてが典型的な宗教になったのは、生活態度が忘れられたり、抑制されたりしたときだけである。おそらく、すぐに責任者になった人たちは、そのほうが有利だったからだろう（すべての宗教でいつかは起こることだ）。とにかく、本来のユダヤ人の宗教 152（あるいは生活態度だけ）は、（とりあえずここで「宗教」という言葉を使うと）唯一の宗教です。

- 真の一夫一婦制についてはここでいう一夫一婦制とは、強制されるものではなく、完全に自発的に喜びをもって起こり、努力するものであり、また、結婚してからのみ生きるものでもなく、（未亡人の場合を除いて）生涯を通じてセックスパートナーが一人しかいないという、本当に純粋な一夫一婦制のことです。つまり、この一夫一婦制で生活することだけでなく、結婚前にドライブを放棄することで、すでに準備ができていくということです。だから、一夫一婦制という道徳は、若い人たちに好まれるような魅力的なものにできなければならない。

- そして、この一夫一婦制が本当に一般的に生活されるならば、159の恐れのない、曇りのない人間性を持った人々の調和のビジョンも、裸のパラダイス的なユートピアによって具体化され、実現されます。聖書の楽園物語は、それによって決して、歴史的な出来事とはみなされません（創造物語のような他の初期の物語がそうでないように）。3000年前に書かれたこの本は、子供たちの宗教の授業で教えられたように、また現在でもいくつかの宗派が見たり教えたりしているように、著者たちは決して「文字通り」とは考えていませんでした。むしろ、この物語が書かれた当時に一般的であった神々を称える豊饒なカルトにおける売春に反対する物語であり（p.50参照）、そのような豊饒な神々が31st RRの蛇の背後にいたのである。"性交渉による「崇拜」は、もちろん真の一夫一婦制というユートピアの違反を意味し、その結果として「体の一部が恥を隠す」（略してKTVS）ということになるのです。RR。つまり、アダムとイヴの物語は、真の一夫一婦制というユートピアが実現すれば、この恥は不要になるということでもあるのです。

神への信仰はむしろ二次的なものである。神というのは基本的に、一夫一婦制という考え方の裏にある自分の仲間のための権威を持ち、人間の小さなカルトが崇拜しなければならないとされる他の神々に対する論拠を持つためだけに構築されたものです。

● ユダヤ教は何よりも、女性にもオーガズムを感じる権利がある唯一の宗教です。本当の一夫一婦制を実現するためには、もちろん、女性が性的な面でも満足感を得ること、つまりオーガズムを経験することが重要です。心理学者のヴィルヘルム・ライヒが言うように、あらゆる技術的なトリックを駆使して得られるオルガズムではなく、二人の人間の魂の調和や親和性からほとんど自然に生じるオルガズムのことである。(注：新聞「DIE WELT」の情報によると、少なくとも全女性の3分の2はオーガズムを経験したことがないとのことなので、このオーガズムも今日初めての目標とすべきでしょう！)。

もしこれが、非人間的な宗教に対抗して当時考え出された偉大な宗教ではなく、今日、他のすべての宗教に打ち勝つための材料を持っているとしたら、それは結局のところ、民間伝承や迷信（そこにビジネス上の利益や権力構造、他との区別の必要性が加わる）と組み合わされた、苦しんだトラウマの培養物に過ぎないことが多いのです。しかし、普通はユダヤ人でもこのことを知らないのではないかという印象を受けます。

さて、イエスの時代の問題は、このユダヤ人の「本来の宗教」が、イエスの時代にはすでに明らかに「葬られた」か、少なくとも大部分は忘れ去られていたということであり、したがって、当時発言権を持っていた当局者は誰もそれ以上気にならなかったということである。ユダヤ教はほとんどカルト的に凍結されており、番の性的虐待はほとんど当たり前になっていた。だから、この家を建てる人、あるいは請負人のイエス（「請負人」については次の点を参照）は、これを目にして、ユダヤ教の主張と現実の間に明らかな矛盾があることを知り、本来の宗教を復活させようとしたに違いない。普通の仲間には好評だっただろうが、全く興味のない人もたくさんいたはずだ。

いずれにしても、神学者としての知識と、教師としての30年のプロとしての経験から、私はこの作品の中で、古いユダヤ人のユートピアの理想をポジティブなコンセプトに結びつけ、若い人たちにも受け入れられるようにしました。なぜなら、若い人たちはまだそのようなユートピアの理想を持っており、方法さえ知っていればそれを実現したいと思っているからです。

そして、ここは悪くないと思っています！今回の後編をご覧ください。しかし、残念なことに、私が教師をしていた頃は、すべてがまだ十分に整備されていませんでした。

神はまた、曲がった線をまっすぐに書く：信仰の反対者を通して、本物のイエスに。

本物のイエスの後の神学と信仰の実践：本物のイエスは、どちらかという（今で言うところの）典型的な調査ジャーナリストで、そのために死ななければならなかったのでしょう。その後、彼は対戦相手によって、いわば完璧に改竄されてしまったのである。

教会やキリスト教の信仰全般に対して、「キリスト教全体が空虚なファンタジーであり、それゆえ多かれ少なかれ架空のものであり、基本的には嘘と詐欺である」と批判する人がかなりいます。

このような批判は、神学者やその他の教会の代表者に大きく、あるいは可能な限り大きく跳ね返ってきます。彼らは非常に多くの場合、そのような批判を気に留めていないようで、そのため彼らも気にしていません。彼らは、自分たちが研究し、主張していることがあたかも強固な基盤であるかのように伝えていきます。

しかし、このようなキリスト教の宗教や教会に対する批判者の中には、絶対に真摯に受け止めるべき、かなり真面目な科学者がいると思います。真剣に受け止めるべき批評家たちと関わることで、私たちの信仰、ひいては教会にとって何かプラスになることがあると信じることは、神への誠実な信仰に沿うことでもあるのではないのでしょうか。

その中でも特に3つのことを考えています。

1. **カールハインツ・デシュナー (1924-2014)** は、神学、哲学、文学、歴史などを学び、博士号も取得しています。彼は著書『Der gefälschte Glaube - die wahren Hintergründe der kirchlichen Lehren』（偽りの信仰-教会の教えの真の背景）の中で、信仰の



そして、キリスト教の本質的な「**信仰の真理**」が他の宗教からの盗用であることを説明するための3枚の写真があります。

牡牛に扮したゼウスがいるエウロパ」というモザイクは、ナポリの国立博物館にある。新約聖書の「マリアの受胎告知」のパラレルストーリーの絵を印刷する必要はない。

内容のほとんどが、処女懐胎や神の父による子孫繁栄、神の子の救済機能、奇跡、神の磔刑まで、死者の蘇生と復活、パンとワインを使ったカルトの祝宴など、古代の非キリスト教の宗教からの盗用であることを述べています（ちなみに他の人も同様です）。



悪との戦いで死んだオシリスの覚醒時に鳥の姿をしたイシスが、3日間かけて冥界の死者の魂を訪ねたという、アビドス（エジプト）のセトス1世の霊廟のレリーフがあるように、イエスの復活の話は新しいものではない。



皇帝アントニウス・ピウスとその妻ファウステイナの昇天のレリーフはバチカン美術館にある（マインツのローマ・ゲルマン博物館で石膏模型を撮影した）。皆さんは、イエスの被昇天やマリアの被昇天の絵をよくご存知だと思います。

2.デンマークのインド学

者クリスチャン・リントナー（1949 - 2020）は、ギリシャ語、ラテン語、古代インドの言語サンスクリット語とパーリ語の専門的な知識を持っています。リントナーはその著書『イエス・キリストの秘密』の中で、新約聖書の大部分が古代インドの仏教書からの盗用であることは明らかであり、西洋の典型的な神話やユダヤ教からの「挿入物」で「ポン引き」されていると述べている。リントナーはこのことを、仏教の僧侶たちは西洋のための仏教を作ろうとしていたが、彼らは仏教の哲学にしか興味がなかったため、

この仏教を西洋で一般的な（外部の）「枠組み」に組み込んでしまったのだと説明しています。西洋にとっての仏教における「仏教徒の英雄」は、したがって仏教徒が発明したイエスであり、そうしてリントナーは「イエスは仏陀である」という真骨頂にたどり着くのである。Christian Lindtner については、<https://unser-mitteuropa.com/in-memoriam-dr-phil-christian-lindtner-1949-2020/>（または、google で「Christian Lindtner」「Unser Mitteleuropa」と入力すると検索しやすいです）。

3. ユダヤ系英国人のタルムード学者で、最近ではリーズ大学のユダヤ研究センターの教授を務めていたハイアム・マコビー（1924-2004）。マコビー氏はその著書「The Mythmaker」の中で、この「新参者」パウロを取り上げ、彼が幼少期にタルソで過ごした時に知っていた「物語」や「儀式」を、時には血なまぐさいアッテイスとアドニス教団の中心地であるイエスに移し、本物のイエスとは何の関係もない、少なくともあまり関係のない、全く新しい宗教を作り上げたことなどを説明している。つまり、リントナーが「イエスはブッダ」と言ったように、マコビーは、パウロを参考にしてゆるやかに「イエスはアテイス」と言うのではないのでしょうか。

この3人の批判的科学家が発見したことは、実は私たちのキリスト教信仰にとって致命的な打撃となります。何と言っても、私たちの信仰を構成する最も重要な教えを中心に展開します。

しかし、それで終わりではありません！

イエスとは何だったのか、何に献身していたのか、なぜあんなに残酷に殺されたのか、その決定的なヒントは、意外なことに、私が住んでいるケルンの西にあるクノールブレカフ（「テンサイの農村」）の隣人である農民から得た。畑の中の「採石場」を改造したアパートの1室を、デモンドのプロであるヒモに貸したことがあり、その時に「自分の仕事の分野」について会話をしたことがある。そして、ある時、彼から話を聞いたところ、ヨハネ福音書で有名な「イエスが罪人を石打ちから救った」という話は、明らかにデモンズからの罰の話であるという結論に達しました。そんなことをしている」女性が現行犯で捕まり、捕まった女性が死刑になることを知っている「捕手」が2人いて、そのまま裁判に駆けつけることがあるだろうか。ここで何か意図的に仕組まれない限り、そんなことは起こらない。イエスはこのことを確かに知っていた。というのも、彼はおそらく、それ以前に全地域の家族建設グループでハウズビルダーとして働いていたことから売春婦や徴税人（というよりも徴税人）とも友人であり、彼らの問題について話したことも確かにあったからです。例えば、ダニエル書の付録にある美しいスザンナの物語の「二人の証人の手順」によれば、女性がどのように脅迫されて売春をさせられるかを学んだ。"私たちとセックスをするか（当時は売春をすることを意味していた）、

もし拒否するなら、裁判所に報告して、あなたが若い男とセックスをしているところを捕まえたが、彼は逃げてしまった、そうしたらあなたは処刑されるだろう”。つまり、魅力的な女性は、そのような男性に対して、売春か死かの二者択一しかなく、勝ち目がなかったのです。ヨハネの福音書に登場する罪人の場合は、明らかに状況が異なっていました。彼女は確かに売春婦で、何らかの形で自分の「職業」の規則を破り、そのために罰せられることになったのです。もしかしたら、正しい収入を隠していて、きちんと届けていなかったのかもしれませんが。彼女もイエスの演説を聞いて、自分の職業を辞めたいと思ったのでは？これは、彼女の「保護者」（またはポン引き）が、彼女が求婚者とセックスしているところを捕らえられるように仕組んだもので（仕組まれた話だったので、求婚者は気づかれずに逃げるのができた）、それゆえに罰せられるべきなのです。特に、「保護者の他の女性」がこのような馬鹿げたことをしないように警告するために。



絵「イエスと罪人」を正しく解釈すれば、画家ルーカス・クラナツハ（1472-1553）は、ヨハネの福音書の物語を私と同じように「だから犯罪の話だ」と考えていたことになります。石を吸おうとしている人たちが犯罪者だと思っているなら、こ

れ以上明確に描くことはできないと思いますが、少なくとも彼らは堅苦しい道徳家には見えません。そして、右奥にいる2人の「賢い年配の紳士」は、いつも表面だけを見ていて、本当は何が起きているのかを知らない（知りたくない）、典型的な高尚な神学者や哲学者（そしておそらくほとんどのジャーナリストも）です。このようにして、犯罪者たちは好き勝手に行動することができる。魅力的な写真ですね。なぜベトナムでこの絵を描いてもらったのか、もうわかりました。

イエスはこの残虐な行為を目の当たりにし、公の場で「罪に対して、偽善者に対して、愛のために」と演説して糾弾した。彼は、明らかに非常に強力なデモンズ（今でいうマ

フィア)を相手にしていたのだ。そのために彼は死ななければならなかった。

つまり、イエスはNTに書かれているような宗教の創始者ではなく、現代で言えば、ピーター・R・デ・フリース(オランダ)、ヤン・クチャックとその妻マルティナ・クスニロヴァ(スロバキア)、ダフネ・カルアナ・ガリツィア(マルタ)、ジャマル・カシヨギ(サウジアラビア)のような調査ジャーナリストのような存在だったのだ。

つまり、彼は売春と金(マフィアの典型的なビジネス分野で、当局の役人も参加したり、見て見ぬふりをしたりしていた)にまつわる犯罪の手口を「その場で」知り、今日のような普通のメディアがない時代に、公の場でのスピーチでそれを公表したのである。それは後に、多かれ少なかれ敬虔な説教となり、誰も傷つけなかった。

そして、この「盗作新約聖書」はどのようにして生まれたのか。この問題は、イエスが身を投じた「半世界」のイメージがわかれば、実はとてもシンプルなものです。というのも、イエスの死によって、イエスの思想ももちろん死んだわけではなく、十分に公に語っていたので、信者もいたのです。そして、彼の死後、彼の精神を受け継ぐ者が現れました。イエスの反対者たちは、それが全く気に入らなかった。しかし、イエスの懸念を効果的に「和らげる」ためには、どのようにすればよいのでしょうか。今日、同じような問題が、コンピューターのハードディスクのファイルを削除することで分かっています。削除」機能をクリックして削除しても、コンテンツはもちろん残っていますが、もう見つけることはできません。しかし、それらを再び見つけるためのプログラムがあります。削除されたコンテンツが新しいコンテンツで書き換えられて初めて、本当の意味で削除されたこととなります。そして、イエスの公約もそうでした。だからこそ、「新しい内容」で書き換えられたのです。つまり、今日私たちが「新約聖書」として知っている、他の宗教からのすべての盗作からの概念で書き換えられたのです。つまり、新約聖書は本物のイエスのために書かれた宣伝・啓蒙書ではなく、本物のイエスとその目的に対して、当時の手段を使って巧妙に陽動作戦を行ったものなのです。

そして、この"中毒者"パウロが、この削除と書き換えに主導的な役割を果たしたことは明らかです。彼は、イエスの十字架上の死を、人類の救済のために自ら望んだ犠牲の死とすることを考え出していたからです。....

このことは、冒頭に引用した3人の宗教批判者の批判が完全に正しいことを意味しています。ただし、問題の解決策は彼らが想像したものとは多少異なるかもしれません。

この詳細、そして何よりも、本物のイエスの発見が今日の私たちにとってどのような意味を持つのかについては、インターネットのウェブサイト(www.michael-preuschoff.de)

の「イエスの思想」の項で詳しく知ることができます。また、数力国語に対応しています（現在最も優れた翻訳プログラム（www.deepl.com）で翻訳されています）。

しかし、「ヨハネ8章の罪の話が本当に半世界の罰の話だとすると、それは本当のイエスを示していることになる」という批判の声がすでに聞こえてきそうです。しかし、たった一つの状況証拠に基づいて、伝統的な神学全体を海に投げ捨てることができるでしょうか？これに対して私は、不明瞭なケースでは、たった一つの優れた状況証拠から完璧にケースを再構築することができる、と言うしかありません。例えば、新約聖書を書いたのは誰なのか（いずれにしても、イエスの弟子やイエスを個人的に体験した人ではない）、なぜ書かれたのか、どうやって「人々の間」に伝わったのか、誰にもわからないのです。

それは、もはや司祭や学者の宗教ではなく、教義や信仰の宗教でもなく、したがって、権力や支配の宗教でもなく、その主な目標は、赦しや死後の生活の保証ではなく、合理的なゲームのルールを持つ人生に対する高度な倫理的態度である。そして、その合理的なルールは、特に性道德に関しては、誰もが受け入れられるようなものである。しかし、子供の頃から教えてもらわなければならない。私の教師としての経験によると、彼らの娘たちが最も興味を持っているのはまさにその通りです。どうせ「お年寄り」には届かないでも「若者」には届く！？もちろん、一般的には難しいことですが、もし私たちが若いクリスチャンの人々を獲得すれば、噂は広まるでしょうし、特にインターネット時代には、ムスリムの若者にも広まるでしょう。

そしてここには、今日の生活の現実があります。

実はこの間、ジェンダーの問題については十分に語られてきました：この再モデル化は、全く意味のない、全く余計な、そしてしばしば馬鹿げたドイツ語の墮落である。それは（魔法の言葉「アブラカダブラ」のように）男女平等をもたらし、女性の地位をさらに向上させるものだと考えられています。しかし、経験上、このような「魔法の言葉の言語」ではうまくいきません。言語がそのようなアップグレードを達成することはできないのです。だから、現実を別の方法で変えていくことを大切にしなければならないのです

そして、ジェンダー化によって、再び新しい豚が村で飼われることになるのですが、その目的は、実際に何が重要で、何を変えなければならないかについて、すべてが変わらないようにすることです。そして、それは他の国でも同じでしょう。実際には、女性の本当のアップグレードには効果のない「他の種」があるのです。

私の言いたいことは、私が専門学校教師としての「キャリア」をスタートさせて間もない頃、保護者会の機会に生徒の母親と交わした会話によく表れていると思います。私は、「彼女たちは、みんな統合失調症のようなものだよ」と、かなり軽やかに答えた。彼女：「???」。私：「そうですね、彼らは無害でパラダイス的なものにパニックを起こしています。そこでは、人間性についての有益な知識も拾えますし、「ビーチでの裸」という美しいモラルを持ってオールマイティになりたい男性を鼓舞することもできます。しかし、問題となるのは、あまりにも疑わしい相手とのセックスであり、時には生涯にわたるトラウマを引き起こすこともあります。彼らはそれを望み、実行するのは。"そして、"母親は、"あなたは今何をしたいの?"と言った。私：「女の子がそれぞれ相手をすること」。母親："それができれば上出来!"

ここでは何が起きているのでしょうか？

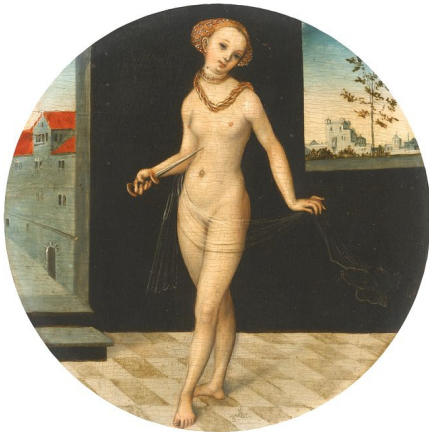
私たち人間は本来、非常に道徳的な存在であり、特に性的な問題については、若い頃から、特に女の子はそうであるということです。そして、彼らは明確なモラルを教えられていないので（彼らはそのための脳を自然に与えられている）、その社会で一般的なモラルを採用します。それは身体に対する敵意という疑似モラルであり、彼らは子供の頃から自分の身体を恥じることを学びます。なぜなら、特に異性と区別する部分は、明らかに人に見せたくないものであり、それはつまり、邪悪なものに違いないからです。なぜなら、特に異性と区別する部分は、明らかに人に見せたくないもの、つまり、それゆえに邪悪なものでなければならないからです。

だからこそ、恥ずかしいのです。しかし、人生は続きます。ある時、異性にも興味を持つようになります。自分にふさわしい相手を見つけるために、常にある種の「求愛の段階」にある若い人たちにとっては、見たり見せたりするだけで十分なのではないでしょうか。つまり、お互いを知るためのまったく無害なゲームなのです。しかし、そんなことはあり得ません。このような無害な行動は、敵意や羞恥心を体得するための教育によって不可能になっています。羞恥心からの解放は、売春婦の風習になるからです。人は売春婦ではないし、なりたいたとも思いません。それは、高いモラルに反するからです。では、どうすればいいのか？性交はいつかはしなければならぬし、みんなが言うように、みんながうまくいくわけではないので、彼女たちは自分たちで「じゃあ、やろうよ！」と言います。結局のところ、性交は性の自己決定の一部であり、解放が成功した証でもあります。そして誰もが、それは全く普通のことであり、そうでなければならないとさえ話しています-あなたが普通で健康であることの証としても」。そして、母親との会話の中で話題になったように、実際には適さないパートナーと一緒に始めることが多いのです。

しかし、このようなモラルの捻じ曲げは、実際には無害な楽しみであり、（適切に行われさえすれば）全く自然なことであるものと、そうではないもの、そして状況に応じて若者が行うべきこととそうではないことを、私たちの文明の中で性的モラルをひっくり返している。イエスの時代には、犯罪エネルギーの高い少女や若い女性は、正に犯罪的な方法によって、生まれつきの高い道徳観を捨てさせられていました。今日では、見せかけの道徳観に操られて、無関心や共感性の欠如をプログラムされています。

このことは、性の自己決定を成功させ、特に少女、ひいては後年の女性の真の解放につながるでしょう。一方では、身体に対する敵意を克服し、他方では、本来あるべき場所、すなわち家族の中でのみ性交渉を行うのであれば（なぜなら、その過程で子供が生まれる可能性があり、子供は家族に属するものだから）。

羞恥心は、一夫一婦制という人間の自然なモラルを守っていないからこそ生まれるものです。そして、もし私たちがこの自然な道徳を生きるのであれば、恥はいわば悪夢のように自動的に消えていくでしょう。この自然なモラルへの道は、この意味で女の子をより狡猾にすることです



画家であると同時にヒューマニストでもある長老ルーカス・クラナツハの理想の一つは、道徳と裸体は共にあるというものでした。つまり、真の道徳は裸体と組み合わせられて初めて可能になるということです。この組み合わせの非常に優れた例は、ローマ市民ルクレチアの描写であり、彼女の運命は悲しいものであったとしてもです。彼女はレイプされ、自分自身には何の罪もないのに、生きていくのが嫌になるような恐ろしい体験をして苦しみ、自殺してしまったのです。そのため、ローマ

人は彼女を道徳の典型と考えていました。その意味で、ルーカス・クラナツハ・ザ・エルダーは彼女を描いたのです。

しかし、この壮大な操作を考えると、バーゲニングのくだりも完全な赤信号となります。詳しくは www.michael-preuschoff.de、特にオンラインブックの "Jesusideology" をご覧ください。

Michael Preuschoff, Dipl.-Theol. および退職した専門学校の宗教教師, e-mail:

hpreuschoff@gmx.de

ドイツ語からの翻訳で、www.deepl.com

VENUSDIENTST

Karin Freiwald – meine Jahre als Hure



Offene Worte
über die Sexarbeit

Mit historischen Streiflichtern
zu »Liebe, Lust und Laster«



Karin Freiwald – links oben wenige Monate vor dem Beginn ihrer Sexarbeit, rechts oben ihr »Werbefotos im Clubboardell. Links: im ersten Jahr als Prostituierte.



In ihrer autobiographischen Erzählung schildert Karin Freiwald mit beachtlichem Bekennermut den Werdegang zur Hure und erinnert sich an die eindrucksvollsten Erlebnisse und Erfahrungen während der Zeit als Sexarbeiterin. Sie ermöglicht den Lesern einen tiefen Blick in die eigentümliche Welt der Prostitution.

この『Venusdienst - Karin Freiwald - Meine Jahre als Hure』（ヴィーナス・サービス-娼婦としての私の歳月）という本は、インターネットで公開されていたときに友人に教

えてもらいました。そして、この本を読んでいるときに、まったく偶然にも、私のウェブサイトから引用されている箇所（34ページと35ページ）を見つけました。

あるウェブサイト（www.basisreligion.de）で、ビンボーをテーマにした論考を見つけました。この論考は、ある種の行動の刷り込みの根源を非常に的確に表現しています。「しかし、このような不道徳と思われる少女を鼻で笑う前に、ここで実際に不道徳なのは誰なのかを認識しておく必要があるでしょう。そんな女の子が過去にどう活躍したか？子供の頃からタブーや恐怖を伴う奴隷的な道徳観を教えられ、それが彼女の愚かさや素朴さを助長しているのではないか？羞恥心がすべての道徳の典型であると信じ込まされ、それが彼を間違った方向に向かわせ、もっと知りたいと思わせたのではないだろうか？」（注：その後、私は別の論法を好むようになりましたが、それはより魅力的であることを願っています）。

娼婦、いわば商売人の女性が、（神学者である）私と同じように、若い人たちが高い（性）道徳観に傾倒して間違った方向に進んでいるという意見に同意してくれたことを、私は正当に誇りに思うことができると思います。今話題になっている虐待事件は確かに非常に悪いものですが、それは氷山の一角に過ぎないと思います。私たちは単に道徳的に優しい文化的環境ではありません。なぜなら、人は子供の頃から、特に宗教を通して、本当の道徳ではなく、恥（あるいは身体に対する敵意）という幻想的な道徳を学ぶからです。真のモラルとは、特に若い人たち、特にまだ「性体験」のない、好奇心はあってもそれを繰り返さなければならないという強迫観念のない女の子たちの意識から生まれるものであり、水着やビキニから生まれるものではありません。しかし、このような意識にこそ、宗教は興味を示さないのです。そして、宗教も誰もこのことについて研究していません。